

## 傘袋を使いたい

「傘かしげ」という言葉を知っていますか？

京都の先斗町ほんとうちょうあたりを歩くと、昔の日本の道幅がとても狭かったということがわかります。こんな道で、雨の降る日に人とすれ違うときに生まれた素晴らしい作法が「傘かしげ」です。

お互いの傘を外側に斜めにし、傘がぶつからないようにするしぐさを「傘かしげ」というのです。この譲り合いの気持ちですが、日本人の根底にある他人への心配りです。

最近は、いい傘を求めても、傘袋がついていないことが多くなりました。傘を作っているメーカーに聞いても、傘袋の使い方を知らない人ばかりになってしまい、作る必要がなくなってしまったと言っていました。コストダウンにもなりますから、喜ぶユーザもいるのかもしれませんが。

もちろん傘袋は、雨の日に混んだ電車の中などで、びしょびしょに濡れた傘をまわりの人の迷惑にならないようにするための袋です。

でも雨の日に、自分の傘のしずくをさっときって、専用の傘袋に上手に傘をしまっ姿

などほとんど目にするものがなくなりました。人の迷惑を考える余裕がなくなってきたということでしょうか。

その代わり、デパートやお店で、自分の店が濡れないようにペラペラのビニールを傘入れとして用意するところが多くなりました。これは誰でも利用しているようです。

ただ、私はこれが嫌いです。どんなに上等の傘も、安ビニールの傘入れに入れられてしまっっては台無しです。なぜ素敵な傘を持っている女性も、抵抗なく、これを使うのでしょうか。

オシャレに着飾った女性が、雨の日のホテルで、ビニール袋の中に入れた傘を持って、お澄ましして歩いていても絵にはなりません。

私は、傘袋のついていない傘は買いません。傘袋のついていない傘が気に入ったときは、必ず傘袋を作ってくれるようオーダーします。オーダーを受けてくれないようなところでも買いません。

傘には傘袋。これが雨の日のファッションとして大事な心得だと思っています。

